

## 2015年3月11日 東日本大震災から4年を数えての祈り

東日本大震災現地支援委員会

金子千嘉世（郡山コスモス通りキリスト教会）

### 主なる神様

**2011年3月11日から数えて4年が経ちました。この時を覚えて心合わせて共に祈るひと時を与えてくださり、心から感謝いたします。**

2011年3月11日14時46分18秒、マグニチュード9.0の東日本大震災が起き、今の時点で亡くなられた方は15,890人、届出のあった行方不明の方は2,590人、震災関連死3,194人、現在避難生活を余儀なくされておられる方が22万9,897人もおられます。まだ震災は終わっていません。福島は今も被災中です。

主よ、あの日から4年経った今も、愛するご家族をお探しの方がおられます。巨大な盛り土が積み上げられるその景色の端で一秒を惜しむかのように必死でお嬢さんを、息子さんをお孫さんを探しておられる方の手は休むことがありません。少しずつ土地の整備が進む中、「もう家族を探せなくなる」と涙をこぼしておられます。

**主よ、あなたの慰めがなければ立ち上がることができません。どうか私たちに、あなたの慰めを届けさせてください。**

いのちを休める復興住宅の建築が遅れています。2020年のオリンピック開催で、被災地の復興はさらに遅れるという被災地からの嘆きの声が聞こえ、建築途中の家がいくつも放置されています。復興住宅の建築が始まるのがこれから3年も先という地もあり、「その時には生きていない…」とつぶやき、遠くを見つめながら涙を拭うその手を、私たちは幾度となく見てきました。

**主よ、希望を握る道を開いてください。**

主よ、今も眠れない方が多くおられます。「お前は生きるんだぞー」というお連れ合いの最期の声、「お母さーん」と叫ぶ娘さんの声が心に刻み込まれ、泣きながら目がさめる方がおられます。津波で家が押し流されていく様子を途方にくれて見つめるしかなかったあの日のことが、まるで今のこのように思い出してしまう暗い夜。涙の枯れることのない4年です。

**「あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください」（詩編56:9）。**

私たちは被災された方たちと一緒にその涙をあなたに差し出してきました。あなたの涙の革袋に入れていただいていることを信じます。

**主よ、どうぞ慰めてください。主よ、励ましてください。**

今でも、津波から助かったことに負い目をもって生きている方がたくさんおられます。自分を助けるために亡くなっていかれた方のご遺族に合わせる顔がない、自分が生きてしまって、と涙し、あるいは、目の前で流されていく方を助けられなかったことに負い目を抱え、今もその場所に行くことができないと、肩を落とされる方がおられます。

**主よ、生きる希望をお与えくださり、生きていいんだと、あなたが語りかけてください。**

主よ、福島はこれからどうなるのでしょうか。

2011年3月12日、福島第一原発1号機が水素爆発、14日には3号機、そして、15日は4号機が水素爆発をしました。その日以来、大量の放射能が福島を覆いつくしました。福島のみならず、広範囲に放射能は拡散され、海も膨大な放射能で汚染されています。

もう、原発事故は福島のことだけではありませんでした。そのような中、この国は原発を再稼動しようとしています。

**どうぞ、何を選び取るべきなのか、私たちの目を開いてください。気づかせてください。声を上げる勇気を与えてください。**

**主よ、子どもたちを守りたいのです。なすべきことを教えてください。**

福島では、小児甲状腺癌とその疑いと診断された子どもたちが増えていて、112 人を超えました。さらに結節やのう胞が見つかった子どもたちがたくさんおられます。どうぞ子どもたちを助けてください。子どもたちは、病気になるのではないかと不安を抱え、大人になれるのだろうか、赤ちゃんを産めるのだろうか私たち大人を気遣いながら、そっとうめいています。

**子どもたちが御言葉に生き、あなたからの希望を握り続けることができるように、困難に直面したときに共におられるあなたと一歩を踏み出すことができるように、どうぞ私たちが祈って支えることができますように導いてください。**

主よ、子どもたちを守るために必死で生きてきた大人の方々にも、甲状腺の異常や心臓の病気になる方が増え始めました。

**主よ、生きるすべを教えてください。**

福島で生きる親たちがうめいています。もし、あの時、子どもたちを連れて避難をしていればこの子を守れたのではなかったか、と罪責感でいっぱいです。これから先、ここで生きていていいのか、どうしたら子どもたちを守ることができるのか、不安と恐れが積み重なっています。しかし、避難できない事情があります。

**ここに生きる方々のうめきを私たちが受け取り、あなたへの執り成し手として立たせてください。**

主よ、原発事故の収束を早める知恵を与えてください。廃炉に 40 年もかかります。取り出せない燃料棒、どこに溶け落ちたか分からない燃料もあります。その収束に向けて、原発作業員の方々が命をけずって働いてくださっています。

**どうぞこの方々の命をお守りください。**

主よ、家族が離れて暮らしている方々がいます。賠償金をめぐり、避難した、避難しなかった—これらのことで、お互いの心が分断されています。

**どうぞ、和解の主を指し示していくことができますように、教会を、私たちを用いてください。どうぞ、心をつないでください。**

**主よ、私たちが礼拝者として「ここ」に立ち、あなたの業をなすために、今、あなたの見ておられるところを見る目を、あなたが聞いておられるうめきを聞く耳を、あなたが駆け寄りたいと願っておられるその思いを私たちの教会に、そして、私自身に与えてください。**

**主よ、この 4 年間、お守りくださりありがとうございます。**

津波の跡地で、また、福島であなたが先立ってお働きくださり、あなたの業に私たちを招いてくださって本当にありがとうございます。どこに行っても、どんな状況であってもあなたのお姿を見つけることができました。また、全国諸教会、伝道所の皆様の祈りを繋いで私たちの所に届けてくださってありがとうございました。また、たくさんの出会いと募金をありがとうございました。そのお支えがあったので、今までこの働きを続けてくることができました。

**神様、あなたがご覧の通りに復興はまだ先です。これからもどうぞよろしく願いいたします。このお祈りをイエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン。**